

WEEKLY SIGNAL

平成30年11月16日(金) 1450号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

11/19(月)		11/20(火)		11/21(水)		11/22(木)		11/23(金)	
無担保O/N				△0.086% ~ 0.001%					
銀行券	+ 200	△ 1,000		△ 1,000		△ 2,000			
財政他	△ 3,700	+ 1,000		△ 13,000		+ 2,000			
資金需給	△ 3,500	ト ン		△ 14,000		ト ン			
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)	国庫短期証券 発行・償還(1Y) 国債償還(変動15年)		国債発行(20年)		交付税特会借入・償還			
オペ期日	共通担保(全) 補完供給	△ 1,800 + 700							祝日
オペスタート	国債買入 共通担保(全)	+ 7,100 + 1,500							
(日本)	黒田日銀総裁が都内で講演 貿易収支(10月)			全産業活動指数(9月)		消費者物価指数(全国、10月) 対外・対内証券投資(11月11-17日) 日銀営業旬報(11/20現在)			
(海外)	米 NY連銀総裁が講演 米 NAHB住宅市場指数(11月)		米 住宅着工件数(10月)	OECD経済見通し 米 耐久財受注(10月) 米 新規失業保険申請件数 (11月17日終了週) 米 景気先行指標総合指数(10月) 米 中古住宅販売件数(10月) 米 シカゴ大学消費者 マインド指数(11月、確定値)		米 感謝祭で祝日 株式・債券市場は休場 ユーロ圏 消費者信頼感 (11月、速報値)		米 ブラックフライデー 株式・債券市場は短縮取引 ユーロ圏 製造業PMI(11月、速報値) ユーロ圏 サービス業PMI(11月、速報値) ユーロ圏 総合PMI(11月、速報値)	

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、391兆7,600億円から始まった。短国の買入れ等が少額であったことなどから当座預金残高は小幅な増減で推移したが、週末は5年債の発行を主因に減少し390兆9,300億円で越えた。無担保コールON物は、積戻最終週であったものの、取り上がる動きは見られず、最終日までオフアが残る軟調な地合いが継続した。ただし14日はBCP訓練の一環で+0.001%の取引が行われたことから加重平均金利は△0.067%に上昇した。新積期となった16日も地合いに大きな変化はなく、加重平均金利△0.072%(速報)で越えた。ターム物はショートタームを中心に△0.03~△0.04%台での出合が散見された。

来週は、国内では、黒田日銀総裁講演(19日)、海外では、NY連銀総裁が講演(19日)、米中古住宅販売件数(21日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.370 ~ △0.270
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,000億円、週間償還額(約8,200億円)から増加した。発行市場は5・10日発行が重なり、複数の業態からの大型発行案件が見られるなど、活況となった。週末の発行市場残高は、18兆7千億円強と先週末比若干増加した(11/9残高:18兆6,931億円)。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジであった。13日に、CP等買入オペは予定通り2,000億円オフアされた。ディーラーの在庫確保の動きが底堅く、オペでの売却の動きは抑えられ(応札額:3,675億円)、按分レートは△0.004%と前回(△0.002%)比低下した。来週の償還総額は約3,500億円で、5・10日発行による新規発行や期日継続案件が重なると思われる、発行超が予想される。発行レートは、引き続きマイナス~0%近辺での出合いが中心と思われる。

<TDB>

16日入札の3M796回債は、最高落札レート△0.2847%(前回債△0.2400%)、平均落札レート△0.2984%(同△0.2575%)と前回から利回りが低下。償還日が米国休日に重なった前回債に比べ、需要が強かった。週末のセカンダリー市場は閑散。新発3M物は△0.033%で少額出合が見られたほかは、目立った動きは見られなかった。

来週は19日に1Y、22日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.20%近辺の出合い。積み最終日となる15日受渡しは、前場△0.20%近辺から始まったが、後場△0.10%台前半まで上昇。新積み期入り後は△0.13%近辺での推移となったが、19日受渡しでは後場△0.16%台までレートが低下した。SC取引では5年137回債のbidが多く、入札日前日にかけて△0.60%台前半~半ばの出合いが続いた。5年136回債は週初△0.30%台前半~半ば。19日受渡しでは△0.50%台で多く取引された。その他2年392・393・394回債、5年135回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年164・165・166回債、30年59・60回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。